

2026年 5月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	117.0
阪神梅田本店	126.2
支店計	108.6
全店計	115.1

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- 4月に続き全ての商品カテゴリーの売上高が前年を上回り、好調継続。ゴールデンウィークは日まわりも良く、遠方からや帰省客など、三世代でのご来店も多く、幅広い層のお客様で賑わいを見せた。国内顧客の売上高は、連休後も好調に推移し、前年比約1割増と高伸。結果、都心店、郊外店、全店いずれの売上高合計も3月以降継続して前年を上回った。また、都心店は前月から継続して全ての店舗で売上高が前年を上回り、中でも、阪急・阪神両本店は2ヶ月連続で共に2ヶ増と全体を牽引。
- インバウンドについては、中国からのツーリストの売上高は前年の約4割減と厳しい状況が続くものの、中国を含む海外VIPは約4割増と前年を大きく上回り、免税売上高全体として約2割増と本年3月以降継続して前年を上回る。
- 阪神梅田本店は、ファッション・ライフスタイルカテゴリーが売上高前年比約3割増と引き続き高い伸びを示し、食品も約1割増と高伸。ゴールデンウィークや中旬の大型催事も寄与し、全体として約3割増と、前年5月の上層階(2~8階)リニューアルの反動も見られず売上高実績をさらに大きく上回った。

○ 阪急本店の概況

- 国内顧客の売上高が、5月として過去最高だった前年に対し約2割増と高い伸びを示し、同じ月の対比において5ヶ月連続で過去最高を更新。免税売上高も前年の約2割増となり、店舗全体としても約2割増と好調な推移。
- 5・6階『HANKYU LUXURY』が引き続き全体の売上を牽引。インターナショナルブティックの売上高は前年の約5割増、宝飾品・時計も約2割増といずれも高い伸びを示した。全館の100万円以上の高額品売上高も前年に対し約4割増と高伸。また、ブライダルニースが好調なアクセサリは約6割増と継続的に大きく売上を伸ばした。
- ゴールデンウィーク明け以降、夏日が続き初夏のファッションへのニースが高まる。モードやコンテポラリーファッション、婦人靴、紳士服では売上高が前年比2ヶ増と大きく伸長。また、アイテムにおいてはカットソーやブラウス、パラル、サンダルが高稼働し、紳士服においてはTシャツが好調。
- 今回で40回目を迎える人気催事「イタリアフェア」を開催。シェフ日替わりのパスタバーをはじめイトインメニューの充実など、食の体験価値の提案強化も寄与し、幅広い層のお客様が連日多数ご来店。例年の11月から開催時期を変更したことによるマイナス影響もなく、期間売上高は計画を大きく上回る約2割増の好結果。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2025年度												2026年度	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
阪急本店	85.2	81.8	86.6	103.1	99.2	104.9	100.7	93.2	100.7	95.9	107.0	111.7	117.0	
阪神梅田本店	102.8	109.2	106.6	118.3	134.0	112.7	122.9	107.4	136.5	126.3	119.2	127.2	126.2	
支店計	95.5	92.8	94.3	104.1	99.4	102.6	102.8	97.1	101.4	99.0	101.5	105.1	108.6	
全店計	90.2	87.9	91.2	105.1	103.2	104.9	103.6	96.0	104.1	99.8	106.4	110.9	115.1	

■ 食品事業

食品スーパー計	売上高前年比(%)
既存店計	99.9

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

<本件に関するお問い合わせ先>

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181